

国語

➔ 中・高学年 | 「書く」ことの学習として

「学習のふり返し」で書くことへの意識を高める

1. 「ふり返し」は、学期の節目に効果あり？

学期末になると、「今学期をふり返って」と題したプリントを配布している先生も多いようです。自らの学校生活や学習状況をふり返らせて、次の学期に向けての目標をもたせることはとても大切です。「自己評価」とは、自らの努力や成長を自覚するという、本人の関心・意欲・態度に関わる大変貴重な学習活動なのです。ふり返る材料も資料も何もないまま、ただ感覚的にプリントに記入させてしまったのでは、大変もったいないと思います。

2. 「学びの足跡」を残しておく

このような事態を招かないようにと、私がいつもノートに書かせているのが、「初めの感想」「今日の一言」「学習のまとめ」の3つです。

(1) 単元の最初を書く「初めの感想」

新しい単元に入る時は、ノートにも扉のページを用意させ、そこに最初に感じたこと、考えたこと、わからないこと（みんなに聞いてみたいこと）など、何でも自由に感想を書くようにと指示しています。分量は数行程度で構いません。

(2) 授業の最後を書く「今日の一言」

その日の授業でしたこと・わかったことなどを、毎時間、終業の挨拶代わりに、ノートにひと言書くようにと指示しています。その一例をご紹介します。「『ポンと』という言葉から、いろいろなことがわかりました。」

「第二場面をノートに書き写し。手がつかれた～」

こうした「今日の一言」をふまえ、次の授業の開始時に、日直を中心に指名して、「前の時間に学んだことは何か」、そして、「今日の授業では何を学

習しようと考えているか」を尋ねています。

(3) 単元の最後を書く「学習のまとめ」

単元を終えた時には、「初めの感想」をふまえて、「テスト以上に大切である」と伝えて次のようなことを書かせています。

「学習のまとめ」

- ①この学習を通して、わかったこと、わからなかったこと、考えたこと、学んだこと
- ②自分が頑張ったこと、頑張れなかったこと、自分の目標はどこまで達成できたか
(例) 音読カード、ノートの書き方、話し合いの司会、グループ活動、○○の作品作りなど
- ③次の学習に向けての目標

初めは箇条書きでもよいと指導しますが、きちんと自分の言葉で文章の形式でまとめられている場合は、それを高く評価し、コピーして掲示したり、国語通信に掲載したりして学習材として活用します。

3. 自分の考えを書き残しておく価値への気づき

このように指導していくと、「学習のまとめ」は、書き重ねていくにつれて、かなり具体的な記述になってきます。

「このお話を最初に読んだ時は、…だとしか思っていませんでしたが、授業を通して、…という言葉に改めて感動しました。」

例えば次のように、自己評価を上手に次の学習に活かせるようにもなるのです。

「毎回、必ず意見を言うように心がけていましたが、手を挙げるのに気をとられて、ノートにきちんと意見が書けていませんでした。……」